

一般社団法人 人文地理学会
2025 年 定時社員総会 【資料】確定版

日 時：2025 年 11 月 15 日（土） 16 時 40 分～17 時 40 分
会 場：同志社女子大学 今出川キャンパス 楽真館 4 階 R401

開会宣言

定足数確認

議長選任

議事録署名人選出

議 事：

＜報告事項＞

1. 2024/25 年度 事業報告 2～16 ページ
2. 2025/26 年度 事業計画 17～19 ページ
3. 2025/26 年度 収支予算 20 ページ
4. その他

＜審議事項＞

1. 2024/25 年度 決算 20～24 ページ
2. その他

監査報告 25 ページ

閉会宣言

議長解任

* 定時社員総会は会員総会を兼ねています。定時社員総会終了後、
第 25 回人文地理学会学会賞受賞者の表彰式が行われます。

1. 2024/25 年度事業報告

1. 庶務委員会（島津俊之 常任理事）

① 会員の動向（2025 年 9 月 30 日現在）

年 度	2016	2017	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25
会 員	1,136	1,221	1,165	1,164	1,122	1,136	1,109	1,119	1,097 国内 1,091 海外 6
団体会員	144	144	140	137	137	137	134	134	136
(学生)	(164)	(140)	(130)	(125)	(116)	(118)	(110)	(114)	(116)
入 会	36	33	32	31	28	39	38	40	44
(学生)	(21)	(22)	(20)	(20)	(14)	(22)	(26)	(28)	(32)
退 会	22	33	40	37	24	30	38	24	31
(学生)		(7)	(4)	(8)	(4)	(3)	(4)	(3)	(3)
資格喪失	—	54	—	39	—	29	—	36	—

*資格喪失は隔年（名簿発行年）

② 交換・寄贈雑誌（2025 年 9 月 30 日現在）

国内交換雑誌 42 誌 海外交換雑誌 9 誌

③ 2024/25 年度 社員総会・常任理事会・理事会の開催

社員総会 [1 回：11 月 23 日]

常任理事会 [5 回 (全てオンライン)：10 月 5 日，12 月 7 日，3 月 29 日，7 月 1 日，9 月 13 日]

理事会 [9 回：10 月 12 日 (対面＋オンライン)，11 月 23 日 (対面＋オンライン)，12 月 14 日 (対面＋オンライン)，2 月 3 日～7 日 (メール審議)，4 月 5 日 (対面＋オンライン)，5 月 19 日～30 日 (メール審議)，7 月 5 日 (オンライン)，7 月 29 日～8 月 2 日 (メール審議)，9 月 20 日 (対面＋オンライン)]

2. 会計委員会（三木理史 常任理事）

① 会費納入状況（2025 年 9 月 30 日現在）

会員数(個人) 1,097 名(うち，海外会員 6 名)

○国内会員 1,091 名

第 77 巻まで完納：871 名(永年会員 75 名含む 納入率 79%)

第 76 巻まで納入（1 年未納）：145 名(うち，住所不明 0)

第 75 巻まで納入（2 年未納）：51 名(うち，住所不明 4)

第 74 巻まで納入（3 年未納）：24 名(うち，住所不明 7)

○海外会員 6 名

(うち，1 名は永年会員，2 名は第 76 巻まで完納)

○永年会員 77 名

(2024/2025 年度中の移行者 6 名)

② 研究部会会計報告

(2025 年 9 月 30 日現在, 単位: 円)

研究部会	予 算	支 出	残 高
歴史地理	80,000	32,840	47,160
地理思想	80,000	20,000	60,000
都市圏	80,000	26,000	54,000
地理教育	80,000	55,000	25,000
観光空間	80,000	39,000	41,000

③ 第 21 回国際地理オリンピックへの寄付

10 万円を寄付した。

④ 第 17 回日韓中地理学会議への寄付

5 万円を寄付した。

3. 編集委員会 (米家泰作 常任理事)

① 定期刊行の実現

会誌『人文地理』は, 第 76 巻第 3 号より第 77 巻第 2 号まで, 定期刊行を実現した。

② 会誌編集状況 (後掲資料参照)

編集会議を 8 回開催し (臨時メール会議を含む), のべ 50 本の投稿論文を審査した。うち 10 論文を受理し (論説 5, 研究ノート 4, フォーカス 1), 8 論文を返却した。

4. 集会委員会 (佐藤廉也 常任理事)

① 大会

1) 2024 年 人文地理学会大会

近畿大学 東大阪キャンパス 2024 年 11 月 23 日 (土・祝) ~24 日 (日)

- ・大会参加者: 250 名 (会員: 事前 217 名・当日 33 名, 非会員: 56 名)
- ・発表数: 46 件 (特別研究発表: 4 件, 一般研究発表: 42 件 (口頭: 35 件, ポスター 7 件))
- ・研究部会アワー: 5 件
- ・特別研究発表: SP11: 67 名, SP12: 63 名, SP21: 80 名, SP22: 95 名
- ・エクスカーション参加者: 17 名
- ・懇親会参加者: 98 名
- ・若手のためのランチミーティング: 66 名
- ・保育ルーム: 1 日目・1 組 2 名 2 日目・1 組 2 名 (2 組 2 名キャンセル)

- ・書籍出展企業（団体）：4 件

2) 2025 年人文地理学会大会

- ・2025 年 11 月 15 日（土）～16 日（日）同志社女子大学 今出川キャンパス
- ・Google Forms により参加登録（大会参加費・懇親会費とも事前振り込み）
- ・『2025 年人文地理学会大会研究発表要旨』は電子版を発行，学会サイトより事前公開・配布
- ・保育ルーム設置
- ・11 月 15 日（土）
午前 エクスカーション
午後 特別研究発表 4 件，一般研究発表（ポスター発表）3 件，定時社員総会（会員総会），学会賞授賞式，懇親会
- ・11 月 16 日（日）
午前・午後 一般研究発表 66 件（口頭発表 59 件，公募セッション 1 組 4 件，ポスター発表 3 件）
昼休み 学生と新進研究者のための交流会
午後 特別セッション 1 件（編集委員会主催），研究部会アワー 5 件

② 例会

第 297 回（特別例会）札幌市（北海道立道民活動センターほか）2025 年 6 月 28 日（土）
共催・北海道地理学会

6 月 28 日（土）シンポジウム テーマ「アイヌ文化を考える」（講演 1 件，パネルディスカッション報告 3 件）参加者 64 名 懇親会参加者 30 名

6 月 29 日（日）バス・エクスカーション（日高管内，平取・二風谷方面）参加者 30 名

③ 研究部会

1) 歴史地理研究部会

第 163 回 2024 年 11 月 24 日 近畿大学（部会アワー）参加者 34 名

2) 地理思想研究部会

第 150 回 2024 年 11 月 24 日 近畿大学（部会アワー）参加者 62 名

第 151 回 2024 年 12 月 1 日 同志社大学今出川キャンパス 参加者 40 名（うち，オンライン 19 名）

第 152 回 2025 年 3 月 22 日 京都大学吉田キャンパス 参加者 29 名（うち，オンライン 23 名）

第 153 回 2025 年 5 月 24 日 大阪公立大学文化交流センター 参加者 56 名（うち，オンライン 24 名）

第 154 回 2025 年 8 月 30 日 同志社大学今出川キャンパス 参加者 56 名（うち，オンライン 41 名）

3) 都市圏研究部会

第 71 回 2024 年 11 月 24 日 近畿大学（部会アワー）参加者 30 名

第 72 回 2025 年 1 月 25 日 龍谷大学深草町家キャンパス 参加者 14 名

第 73 回 2025 年 8 月 2 日 愛知大学豊橋校舎 参加者 21 名

4) 地理教育研究部会

第 59 回 2024 年 11 月 24 日 近畿大学（部会アワー）参加者 21 名（うち、オンライン 11 名）

第 60 回 2024 年 12 月 8 日 神戸大学文学部 参加者 51 名

第 61 回 2025 年 8 月 4 日 奈良女子大学附属中等教育学校 参加者 63 名（うち、オンライン 23 名）

5) 観光空間研究部会

第 9 回 2024 年 11 月 24 日 近畿大学（部会アワー）参加者 20 名

第 10 回 2025 年 5 月 31 日 立命館大学京町家キャンパス 参加者 18 名

第 11 回 2025 年 7 月 12 日 大阪公立大学梅田サテライト 参加者 30 名

④ 2026 年の大会と例会（特別例会）の予定

1) 2026 年大会

2026 年 11 月 14 日（土）～15 日（日）早稲田大学 早稲田キャンパス

2) 第 298 回例会（特別例会）

2026 年 6 月 27 日（土）～28 日（日）石川県金沢市（開催幹事校・金沢大学）

5. 企画委員会（山崎孝史 常任理事）

① 第 25 回人文地理学会 学会賞

- ・2024 年 12 月に学会賞（図書部門）候補者選考委員会委員を以下の通り委嘱した。

※印は委員長。

[学術図書部門・学術図書部門奨励賞]

長尾謙吉（専修大・継続）※，服部亜由未（愛知県立大・継続），宮内洋平（立教大・新規），湯澤規子（法政大・新規）

[一般図書部門]

大城直樹（明治大・継続）※，矢部直人（東京都立大・継続），阿部美香（近畿大・新任），大西宏治（富山大・新任）

- ・2025 年 2 月に学会賞（論文部門）候補者選考委員会委員を以下の通り委嘱した。

※印は委員長。

[論文部門]

平 篤志（香川大・継続）※，杉江あい（京都大・継続），倉光ミナ子（お茶の水女子大・新任），神田孝治（立命館大・新任）

- ・2025 年 3 月に上記部門の学会賞候補者選考委員会はオンラインあるいは対面で第 1 回会議を開催し、9 月 7 日締切の答申までの選考手順について意見交換がなされた後、具体的に選考過程に入った。
- ・2025 年 9 月 8 日までに上記部門の学会賞候補者選考委員会から受賞候補者について答申があり、2025 年 9 月 20 日の第 5 回理事会で承認された。受賞候補者および受賞対象図書は以下の通りである。

[学術図書部門]

受賞候補者：杉江あい

受賞対象図書：『カースト再考—バングラデシュのヒンドゥーとムスリム』，名古屋大学出版会，2023 年，417 頁。

[学術図書部門奨励賞]

受賞候補者：佐藤香寿実

受賞対象図書：『承認のライシテとムスリムの場所づくり—「辺境の街」ストラスブールの実践』，人文書院，2023 年，404 頁。

[一般図書部門]

受賞候補者：重永 瞬

受賞対象図書：『Y 字路はなぜ生まれるのか？』，晶文社，2024 年，206 頁。

[論文部門]

該当なし。

- ・新しい学会賞部門として、学生会費納入者による大会一般発表を対象とする「発表ペーパー部門」を新設し、2025 年 6 月の臨時理事会で規程および実施要領が承認された。それを受けて学会賞（発表ペーパー部門）候補選考委員を選任し、以下の通り委嘱した。※印は委員長。

[発表ペーパー部門]

関戸明子（群馬大，継続扱い）※，二村太郎（同志社大，継続扱い），森本 泉（明治学院大，新規），森田匡俊（岐阜聖徳学園大，新規）

- ・「発表ペーパー部門」の候補募集は 7 月に開始し、9 月 25 日に締め切り、10 月末日に選考結果が答申される。その結果は 11 月 15 日の社員総会で公示される予定である。

② 地理学連携機構関連

- ・2025 年 3 月 18 日に第 16 回 地理学連携機構・地理関連学会連合・人文・経済地理関連学会協議会の合同総会が駒澤大学で開催され、機構ならびに関係学協会の活動が報告されるとともに、2025 年度の機構の活動方針が審議・了承された。特に、地理学連携機構，地理関連学会連合，人文・経済地理関連学会協議会の一本化についての検討が開始された。
- ・2025 年度の人文地理学会関係の機構委員としては、地理学連携機構代表に矢野桂司会長，幹事に山崎孝史企画常任理事が就任しており、機構の事務局は 2024 年 4 月か

ら人文地理学会が担当している。なお、人文・経済地理関連学会協議会副議長に山崎企画常任理事が就任している。

③ 若手研究者国際会議派遣助成

- ・2024 年 12 月に第 10 回若手研究者国際会議派遣助成選考委員会委員を以下の通り委嘱した。※印は委員長

池口明子※（横浜国立大・留任 3 年目）

中谷友樹（東北大・留任 2 年目）

二村太郎（同志社大・新任）

- ・同年 10 月に公募が開始され、2025 年 2 月の締切までに 2 名の応募があり、選考委員会にて審議され、その答申は 2025 年 4 月 5 日の第 3 回理事会で承認された。助成採択者の発表タイトル・研究集会名は以下の通りである。

柴田将吾 会員

発表タイトル：Accumulation of Topographical Books and Maps by Intellectuals and Their Networks: Honzogaku and Geographical Knowledge in Early Modern Japan

研究集会名：The 18th International Conference of Historical Geographers, Fudan University, Shanghai, China

開催期間：2025 年 7 月 14 日～18 日

高原佳穂 会員

発表タイトル：Reconsideration of Japanese Early Modern Castle Towns: Demarcation Between Urban Periphery And Adjacent Villages

研究集会名：The 18th International Conference of Historical Geographers, Fudan University, Shanghai, China

開催期間：2025 年 7 月 14 日～18 日

6. 広報委員会（山崎孝史 常任理事）

① 学会ウェブサイトの運営

- ・学会の大会・例会・研究部会などの活動，他機関による研究助成金やセミナーなどの情報，あるいは研究ポスト公募にかかわる情報を，学会ウェブサイトを通して会員および社会に公開した。
- ・サイトコンテンツを管理するシステム（WordPress）の更新を行い，セキュリティレベルを改善した。
- ・固定ページ（英文の倫理規定や投稿規定など）のページを逐次更新した。
- ・2024 年 11 月から新しいアクセス解析プラグイン（Slimstat）を導入し，滞っていたアクセス状況の把握を再開した。

② 学会メーリングリストの運営

- ・原則的に新規入会者でメールアドレスを通知した会員は全てメーリングリストに登録する作業を継続している。
- ・①において公開された集会，助成金，公募に関連する情報など，登録会員に周知すべき情報を迅速に伝えられるようメーリングリストを管理運営した。

③ ソーシャルメディアの活用

- ・懸案であった広報用 SNS の活用について，2025 年 4 月から X（旧 Twitter）において「人文地理学会（広報委員会）」の運用を開始した。主として学会が主催・後援する集会などの情報を画像付きで発信し，2025 年 9 月末現在のポスト数は 21 件である。各記事のインプレッション数は 2000～6000 件で推移している。

④ その他

- ・以上のように，広報委員会では学会関連情報の迅速にして広範な発信を第一の目標とし，多面的な広報活動を展開している。

2024/25年度編集委員会事業報告資料

A 『人文地理』 各号発行状況

年度	総頁数	論説	展望	研究ノート	フォーカス	書評	その他
2016	534	188	96	54	16	38	142
2017	563	115	69	155	32	36	156
2018/19	460	110	67	67	0	82	134
2019/20	450	134	69	35	32	38	139
2020/21	501	96	110	104	38	54	99
2021/22	476	95	141	82	0	58	100
2022/23	489	45	134	142	0	52	116
2023/24	421	0	177	87	17	34	106
2024/25	440	92	130	66	0	30	122
うち76巻3号	178	25	130				23
うち76巻4号	54	19				14	21
うち77巻1号	122	24		22		10	66
うち77巻2号	86	24		44		6	12

- ・各年度は3号（10月発行）から次巻2号（6月発行）までを集計した。
- ・その他には研究部会要旨や彙報、会告、白紙ページなどが含まれる。

B 今年度の『人文地理』 編集状況

編集会議日	11月9日	1月11日	3月8日	5月10日	7月5日	9月6日	合計
論説 新規	5	3		1	2	1	12
再投稿	2	2	4	5	3	1	17
展望 新規						1	1
再投稿							0
研究ノート 新規		1	3	1	2		7
再投稿	1	2	2	2	1	3	11
フォーカス 新規	1						1
再投稿					1		1
合計		8	9	9	9	6	50
論説 受理		1		2	2		5
要再投稿	6	3	4	4	2	2	21
返却	1	1			1		3
展望 受理							0
要再投稿							0
返却						1	1
研究ノート 受理	1		2		1		4
要再投稿		3	1	3		3	10
返却			2		2		4
フォーカス 受理					1		1
要再投稿	1						1
返却							0
合計	9	8	9	9	9	6	50

- ・審査結果S・Aが受理（掲載決定）、B・Cが要再投稿、Dが返却に相当する。
- ・原稿種別変更を求める場合、要再投稿／再投稿として扱う（ただし2023/24以前は、返却／新規として計上）。
- ・副査は全て編集委員外の会員に依頼した。
- ・メールによる臨時編集会議（2/7-13、3/28-4/4）はその直前の編集会議の数値に合算した。

C 近年の『人文地理』編集状況・受理／返却率

年次	2016	2017	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25
論説 投稿総数	23	18	31	23	22	15	16	14	29
受理	5	4	5	4	6	2	2	1	5
(受理率)	22%	22%	16%	17%	27%	13%	13%	7%	17%
要再投稿	11	9	23	15	11	6	2	4	21
返却	7	5	3	4	5	7	12	9	3
(返却率)	30%	28%	10%	17%	23%	47%	75%	64%	10%
展望 投稿総数	1	0	1	5	2	1	4	1	1
受理	1	0	0	1	1	0	1	1	0
(受理率)	100%	—	0%	20%	50%	0%	25%	100%	0%
要再投稿	0	0	0	3	1	0	2	0	0
返却	0	0	1	1	0	1	1	0	1
(返却率)	0%	—	100%	20%	0%	100%	25%	0%	100%
研究ノート 投稿総数	28	14	14	22	19	30	19	12	18
受理	6	5	2	5	3	6	6	2	4
(受理率)	21%	—	14%	23%	16%	20%	32%	17%	22%
要再投稿	18	5	7	15	15	13	8	10	10
返却	4	4	5	2	1	11	5	0	4
(返却率)	14%	—	36%	9%	5%	37%	26%	0%	22%
フォーカス 投稿総数	6	1	3	7	3	1	0	2	2
受理	2	0	1	2	1	0	0	1	1
(受理率)	33%	0%	33%	29%	33%	0%	—	50%	50%
要再投稿	3	0	1	5	1	0	0	1	1
返却	1	1	1	0	1	1	0	0	0
(返却率)	17%	—	33%	0%	33%	100%	—	0%	0%
全体合計 投稿総数	58	33	49	57	46	47	39	29	50
受理	14	9	8	12	11	8	9	5	10
(受理率)	24%	27%	16%	21%	24%	17%	23%	17%	20%
要再投稿	32	14	31	38	28	19	12	15	32
返却	12	10	10	7	7	20	18	9	8
(返却率)	21%	30%	20%	12%	15%	43%	46%	31%	16%

- ・ 審査結果S・Aが受理（掲載決定）、B・Cが要再投稿、Dが返却に相当する。
- ・ 原稿種別変更を求める場合、要再投稿／再投稿として扱う（ただし2023/24以前は、返却／新規として計上）。
- ・ 論文の数は審査ののべ数であり、再投稿をその都度計上している。

第 25 回人文地理学会学会賞候補者選考委員会からの答申

[学術図書部門]

2025 年 9 月 8 日

一般社団法人 人文地理学会長 矢野桂司 殿

第 25 回人文地理学会学会賞（学術図書部門）候補者選考委員会
委員長 長尾謙吉
委員 服部亜由未、宮内洋平、湯澤規子

本委員会は、第 25 回人文地理学会学会賞（学術図書部門）候補者として下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下のとおり答申する。

記

受賞候補者：杉江あい

受賞対象図書：『カースト再考—バングラデシュのヒンドゥーとムスリム』，名古屋大学出版会，2023 年，417 頁。

選考理由：

本書は、バングラデシュにおける詳細なフィールドワークおよび膨大な関連資料・文献の歩を基盤にして、多様な集団が相互に交錯する過程を宗教の別をこえて把握し、宗教やカーストの差異の歴史的構築性を明らかにし、カーストという概念の再考という大きなテーマに取り組んだ研究書である。

序章「生きられる社会空間からの再考」では、シャナイダル（楽器演奏を職能とする被差別のムスリム）との出会いから宗教によって分断された地域像を再検討する問いを持った背景と社会空間研究の視点を提示する。

第 1 部「歴史・社会・空間」では、南アジア社会と学術研究の動向を記述するとともに調査地の状況を述べる。第 2 部「宗教・カースト・コミュニティ」では、調査地の社会空間がどのように変動したのか施設分布の歴史的復元や村落での全数調査を通して明らかにし、シャナイダルの経験を描く。第 3 部「一体性・関係性・生きられる宗教」では、村落の物理空間がどのような関係性や相互行為をもたらしているのか検討する。

終章「生きられる社会空間における宗教とカースト」は、本書での調査を通じて明らかになったことを踏まえてカーストという概念やバングラデシュ農村像、そして南アジアへの研究視点を再考する。

本書は、身体性をともなう経験から生成された南アジアの近現代を描き出した重厚な民族誌であり地域研究としての価値が高い。それに止まらずに、社会空間の探究を通して、地理学を含む近代の学問知と統治プロセスによって構築されてきた強者の歴史に対する果敢な挑戦でもあり、人文地理学の新たな地平を切り開いたといえよう。植民地支配の歴史とも関わる複雑な社会と時代に相対化して論じる視点は秀逸であり、人文地理学と他分野を架橋する重要な研究成果としても高く評価できる。

以上、本書は人文地理学会学会賞（学術図書部門）の授与にふさわしい優れた著作であり、著者をその候補者として推薦する。

[学術図書部門奨励賞]

2025 年 9 月 8 日

一般社団法人 人文地理学会長 矢野桂司 殿

第 25 回人文地理学会学会賞（学術図書部門）候補者選考委員会

委員長 長尾謙吉

委員 服部亜由未、宮内洋平、湯澤規子

本委員会は、第 25 回人文地理学会学会賞（学術図書部門奨励賞）候補者として下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下のとおり答申する。

記

受賞候補者：佐藤香寿実

受賞対象図書：『承認のライシテとムスリムの場所づくりー「辺境の街」ストラスブールの実践』、人文書院、2023 年、404 頁。

選考理由：

フランスは、旧植民地国を中心に移民を受け入れ、第 2 世代以降の人々も多くが暮らしている。この国では、社会における宗教の役割が争点となってきた。「ライシテ」は非宗教性の原則という共和主義的な価値観のもとで政治と宗教の分離を規定する。「承認のライシテ」は、宗教が果たす公的な役割を積極的に承認するライシテである。

本書は、ストラスブールにおける宗教と政治の対話、そしてムスリムの場所づくりに焦点を当てた研究書である。はじめに「ライシテ VS イスラムの二項対立を超えて」では、問題意識、研究の目的と方法、調査バイアスと筆者の立場性について説明し、ローカルな「現場」の実践に着目する研究視点を開示する。第 1 部「理論的枠組みと背景」では、レビューを通してライシテの多面的理解に向けた視角の大切さを述べるとともに、「場所」の動態的理解という人文地理学のアプローチを示す。

第 2 部「事例研究と考察」では、大モスクとムスリム公共墓地の建設を考察したうえで、宗教間対話の取り組みを検討する。ストラスブールでのインタビューや参与観察に基づいており、様々なアクターの働きやそれぞれの矛盾や葛藤を多声的に描く動態地誌となっている。結びの「ストラスブールから問いかけるもの」では、ライシテの普遍主義を問い直している。

本書は、多元的社会における宗教と政治という大きなテーマについて、「場所」研究の視点からローカルの状況を深く検討し、方法論的ナショナリズムの色濃い既存研究を乗り越える論点を提起し、人文地理学や地域研究の意義を他分野や社会に示すものとなっている。

本研究の先には、比較を通じた調査地の特異性の位置づけとともに、場所づくりを通して出現した建造環境が暮らしや対話に与える影響といったテーマの深耕を期待したい。

以上、本書は人文地理学会学会賞（学術図書部門奨励賞）の授与にふさわしい優れた著作であり、著者をその候補者として推薦する。

[一般図書部門]

2025 年 9 月 8 日

一般社団法人 人文地理学会長 矢野桂司 殿

第 25 回人文地理学会学会賞（一般図書部門）候補者選考委員会

委員長 大城直樹

委員 阿部美香，大西宏冶，矢部直人

本委員会は、第 25 回人文地理学会学会賞（一般図書部門）候補者として下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下のとおり答申する。

記

受賞候補者：重永 瞬

受賞対象図書：『Y 字路はなぜ生まれるのか？』晶文社，2024 年，206 頁。

選考理由：

本書において著者は、日常風景の構成要素の一つである Y 字路を、世に数多ある交差点の中から分節化し、それがどうして「生まれるのか」を問う非常にユニークなテーマ設定を行い、路上の風景、地図、表象、都市空間を対象として、地理学的視座から Y 字路の形成と様態を読み解いていく。街をたくさん歩いてきたからこそ、本書で開陳される知見は獲得されてきたはずで、まずは著者の歩き巧者・見巧者振りに感心させられる。

例えば、Y 字路の角に存在する事物を整理し、Y 字路「鑑賞」のポイントを示す第二章の現地でのミクロな空間スケールでの観察や、Y 字路の形成要因を 12 の「型」に分けて解説する第三章の地図を使ったマクロな空間スケールでの考察は、マルチスケールでものごとを捉える地理学のスタンスを体現したものといえる。また Y 字路が生まれる理由を考える際には地形や都市の形成過程といった要素が関わってくるが、それらへの言及を通して、自然地理学と人文地理学の両者が含まれる地理学の面白さを、一般にアピールすることに成功している。そして本書は実のところ、第二章～第四章が系統地理学的アプローチ、第五章は地誌学的アプローチを採る構成となっており、ディシプリンの文脈を意識した巧妙な仕掛けを、ミニマルにではあるが張り巡らしている。知的好奇心に満ちたこれら一連の点において、本書は高く評価されるものといえよう。

本書を開けば何よりも著者の Y 字路そして地理学への愛情と敬意が感じられる。現地調査をもとにした多くのカラー写真、工夫された図、コラム、随所で登場する案内役のキャラクターなど、読者の興味を引きつけ分かりやすく説明するための労力が、多く払われている。そういった面白みを伴った工夫が一般読者の心をつかむ秘訣になっていると言えよう。本書は、各種のメディアで紹介され刷を重ねており、社会にも広くインパクトを与えている。

以上の理由から、本書を、人文地理学会賞（一般図書部門）の授与に相応しい書籍として推薦する。

[論文部門]

2025 年 9 月 8 日

一般社団法人 人文地理学会長 矢野桂司 殿

第 25 回人文地理学会学会賞（論文部門）候補者選考委員会

委員長 平 篤志

委員 杉江あい，神田孝治，倉光ミナ子

本委員会は、第 25 回人文地理学会学会賞（論文部門）候補者について慎重に審議した結果、該当なしとする。

第 25 回人文地理学会学会賞候補者選考委員会からの答申

[発表ペーパー部門]

2025 年 10 月 31 日

一般社団法人 人文地理学会長 矢野桂司 殿

第 25 回人文地理学会学会賞（発表ペーパー部門）候補者選考委員会
委員長 関戸明子
委員 二村太郎, 森田匡俊, 森本 泉

本委員会は、第 25 回人文地理学会学会賞（発表ペーパー部門）候補者として下記の会員に決定したので、
選考理由を付して以下のとおり答申する。

記

最優秀賞受賞候補者：吉田彬人・光本凌大

受賞対象：「17・18 世紀熊本藩領における職人の生業と暮らし—合志郡・芦北郡を中心に」

選考理由：

本研究は、史料的制約のために漠然とした理解に留まっていた職人に着目し、近世の地域社会における職人の特徴や位置について、詳細なデータの分析にもとづき明らかにしたものである。1633 年の史料から 40 名の職人を個人レベルで特定し、藩政村の中で最下層に位置することや、職種ごとの特徴などを示している。また 1787 年の史料をもとに 17 人の職人の来歴や支配者による吟味結果を整理し、職人がどのように生業を営んでいたかが描かれている。農業を生業に組み入れて飢饉などに対してリスクを低減していたこと、多くが本人の代から就業しており様々な事情を抱えた社会的弱者であったこと、支配者の側は職人らの生計維持に配慮した対応をとっていたことなど、当時の地域社会の様相を読み解く、貴重な知見が示されている。さらに職人に関する先行研究の整理を深め、大きな枠組みのなかで本研究の意義を提示しつつ、研究成果を論文として公刊することを期待したい。よって、本研究を、発表ペーパー部門最優秀賞にふさわしい論考として推薦する。

優秀賞受賞候補者：北嶋泰周

受賞対象：「報復主義と日常的承認が混淆する二重社会—ネパールにおける露天商と市民の共犯関係に着目して」

選考理由：

本研究は、カトマンズの露天商が都市発展とともに疎外・排除される状況を、露天商と行政・市民社会との間で発生する「抗争空間」と捉え、そこで生み出される矛盾について、現地調査にもとづき論じたものである。地域住民は露天商を中心とした路上活動の摘発を支持しながら、顔の見える「真正な社会」では日常的な購買行動において露天商を利用しているという、語りと行為の不一致がみられることが、ネパールにおける都市化の課題と関連付けて述べられている。バザールの良さを残したい人々と、均質化されていく近代的な都市を求める人々の葛藤を示すもので、この過程の描出にオリジナリティが認められる。さらに「報復都市論」をめぐる先行研究の整理やジェントリフィケーションに関する分析を充実させて、カトマンズの地誌的研究を超えて議論できる理論的枠組みを提示することを期待したい。よって、本研究を、発表ペーパー部門優秀賞にふさわしい論考として推薦する。

優秀賞受賞候補者：中垣太樹

受賞対象：「〈住宅工場〉としての都市周縁部—アフリカにおける都市形成と価値生産の概念化にむけて」

選考理由：

本研究は、アフリカの都市周縁部をめぐる既存研究を再検討したうえで、批判的インフラ研究や民衆経済論を理論的補助線として導入し、〈「住宅工場」としての都市周縁部〉という概念を提案するものである。この概念では、アフリカの都市周縁部を住宅の建設が進む単なる居住空間として捉えるのではなく、建材の生産・供給、日雇い労働、資源の循環、日常的なケアといった営みが集積し、都市の拡張と生活の維持を同時に駆動する価値生産の集合として再定位している。都市周縁部を生計や貨幣収入を得る場であると同時に、人びとの社会性や共同性の再生産の場でもある「工場」として捉える理論的視座は、重要な知見であると評価される。今後、都市周縁部における創造的な価値生産と資本による収奪の両面を同時に捉える分析、フィールドワークを通じて実証的に描く研究への展開を期待したい。よって、本研究を、発表ペーパー部門優秀賞にふさわしい論考として推薦する。

2. 2025/26年度 事業計画 (●は日程調整中)

2025.11.15 定時社員総会

月	理事会	大会	編集	例会・部会	他学会	前年度
2025年 10月	4: 常任理事会⑤ 11: 理事会⑥		77巻3号発行		11: 経済地理学会地域大会(北海道教育大・函館校)	5: 常任理事会 12: 理事会 26-27: GIS学会大会(京都大宇治キャンパス)
11月		15-16: 大会(同志社女子大 今出川キャンパス)	8: 第7回	16: 大会部会アワー	1-2: GIS学会大会(富山大) 2: 全国地理教育学会大会(畿央大) 11-14: 第17回日韓中地理学会議(京都テルサ) 12: 日本地理学会100周年記念国際シンポジウム(京都テルサ) 29-30: 地理科学学会特別シンポジウム・日本地理学会百周年記念イベント(尾道市瀬戸田町)	9: 編集委 23-24: 大会(近畿大) 23: 理事会
12月	6: 常任理事会① 13: 理事会①		77巻4号発行		6: 地理科学学会大会(広島市)	1: 地理思想(同志社大) 7: 常任理事会 8: 地理教育(共催 兵庫地理学協会 神戸大) 14: 理事会
2026年 1月			10: 第1回			11: 編集委 25: 都市圏(龍谷大)
2月		●: 大会準備委(第1回)				9: 大会準備委
3月	28: 常任理事会②		7: 第2回 78巻1号発行		26-28: 日本地理学会大会(法政大)	8: 編集委 19-21: 日本地理学会大会(駒沢大駒沢キャンパス) 22: 地理思想(京都大) 29: 常任理事会
4月	4: 理事会②					5: 理事会
5月			9: 第3回		●-●: 東北地理学会大会 23-24: 経済地理学会大会(日本大) 30-31: 歴史地理学会大会(せとうち観光専門職短大)	10: 編集委 17-18: 東北地理学会大会(東北大青葉山新キャンパス) 17-19: 経済地理学会大会(愛知大名古屋キャンパス) 24: 地理思想(大阪公立大文化交流センター) 31: 観光空間(立命館大京町家キャンパス) 31-6/2: 歴史地理学会大会(愛知県立大長久手キャンパス)
6月	26: 常任理事会③ (特別例会と重複のため)		6: 学界展望合評会 78巻2号発行	27-28: 特別例会(金沢大)	●: 地理科学学会大会	7: 編集委(合評会) 14: 地理科学学会大会(広島大東広島キャンパス) 21: 日本地理学会百周年記念式典 28-29: 特別例会(札幌市かでる2・7)
7月	4: 理事会③		4: 第4回			1: 常任理事会 5: 理事会 5: 編集委 12: 観光空間(大阪公立大梅田サテライト) 14-18: ICHG(国際歴史地理学会議)(上海)
8月					●-●: 日本地理教育学会大会 17-21: IGU地域会議(イスタンブール)	2: 都市圏(愛知大豊橋校舎) 4: 地理教育(奈良女子大附属中等教育学校) 23-24: 日本地理教育学会大会(筑波大) 30: 地理思想(同志社大今出川キャンパス)
9月	12: 常任理事会④ 19: 理事会④	●: 大会準備委(第2回)	5: 第5回		●-●: 日本地理学会大会(九州大)	6: 大会準備委 6: 編集委 13: 常任理事会 20: 理事会 20-21: 日本地理学会大会(共催 東北地理学会大会 弘前大)
10月	3: 常任理事会⑤ 10: 理事会⑤		78巻3号発行		●-●: GIS学会大会	4: 常任理事会 11: 理事会 11: 経済地理学会地域大会(北海道教育大・函館校)
11月	14: 理事会①	14-15: 大会(早稲田大・早稲田キャンパス)	7: 第6回	●: 大会部会アワー	●: 全国地理教育学会大会	1-2: GIS学会大会(富山大) 2: 全国地理教育学会大会(畿央大) 8: 編集委 11-14: 第17回日韓中地理学会議(京都テルサ) 15-16: 大会(同志社女子大今出川キャンパス) 29-30: 地理科学学会特別シンポジウム・日本地理学会百周年記念イベント(尾道市瀬戸田町)

一般社団法人人文地理学会 代議員
(任期：2024 年 10 月 1 日～2026 年 9 月 30 日)

阿部 亮吾	川田 力	塚本 章宏	二村 太郎
網島 聖	神田 孝治	土屋 純	堀 健彦
新井 祥穂	菊池 達夫	筒井 一伸	前田 洋介
荒又 美陽	久木元 美琴	筒井 由起乃	松井 圭介
安藤 哲郎	倉光 ミナ子	堤 純	松宮 邑子
井口 梓	鋤塚 賢太郎	椿 真智子	武者 忠彦
池口 明子	小泉 諒	寺床 幸雄	森 正人
池田 真利子	小原 丈明	戸所 隆	森田 匡俊
井田 仁康	米家 泰作	豊田 哲也	森本 泉
市川 康夫	酒井 多加志	中川 秀一	安倉 良二
伊藤 健司	作野 広和	中澤 高志	矢野 桂司
伊藤 貴啓	佐藤 廉也	中島 弘二	山内 昌和
伊藤 千尋	澤 宗則	中村 周作	山神 達也
稲垣 稜	柴田 陽一	中谷 友樹	山口 覚
今里 悟之	島津 俊之	西村 雄一郎	山下 博樹
上杉 和央	清水 克志	丹羽 孝仁	山田 浩久
牛垣 雄矢	志村 喬	野中 健一	山近 久美子
大城 直樹	杉江 あい	橋本 雄一	山元 貴継
大呂 興平	関村 オリエ	花木 宏直	由井 義通
岡本 耕平	祖田 亮次	林 紀代美	横山 智
小田 匡保	外戸保 大介	原口 剛	吉田 国光
遠城 明雄	高木 彰彦	半澤 誠司	吉田 容子
香川 貴志	竹中 克行	福田 珠己	吉水 裕也
梶田 真	橘 セツ	福本 拓	
片岡 博美	立見 淳哉	藤岡 悠一郎	
鎌倉 夏来	田原 裕子	藤塚 吉浩	
			以上 101 名 50 音順

一般社団法人人文地理学会 役員
(任期：2024 年定時社員総会～2026 年定時社員総会)

会長	矢野桂司					
常任理事	島津俊之（庶務）	三木理史（会計）	米家泰作（編集）			
	佐藤廉也（集会）	山崎孝史（企画・広報）				
理事	大城直樹	大呂興平	香川貴志	久木元美琴	鋤塚賢太郎	小島泰雄
	米家泰作	佐藤廉也	島津俊之	関戸明子	土屋 純	福田珠己
	藤井 正	藤塚吉浩	三木理史	矢野桂司	山口 覚	山崎孝史
	山村亜希	山本（有田）理佳		吉田容子		
監事	秋山道雄	内田忠賢				

2025/26 年度 人文地理学会 常任委員（報告）

（任期：2025年 定時社員総会～2026年 定時社員総会）

庶務： 島津俊之* 網島 聖 谷崎友紀会計： 三木理史* 石田 曜 村上晴澄

編集： 米家泰作* 安藤哲郎（編集副委員長） 浅田晴久 阿部亮吾 池田真利子
 久島桃代 後藤拓也 杉山和明 田中雅大 谷本 涼 土屋 純
 寺床幸雄 波江彰彦 鳴海邦匡 藤岡悠一郎 本岡拓哉 山口 寛

集会： 佐藤廉也* 丹羽孝仁 大呂興平 甲斐智大 原 将也企画： 山崎孝史* 久木元美琴 佐藤香寿実 須崎成二広報： 山崎孝史* 渡邊瑛季 矢ヶ崎太洋

（*は常任理事，下線は再任委員，太字は新任委員，新任委員は次年度原則再任）

< 審議事項 > 1

一般社団法人人文地理学会2024/25年度決算
(2024年度 2024年10月1日 ～ 2025年 9月30日)

2025年9月30日現在

<収入の部>

科目	2024/25年度 予算	2024/25年度 決算	執行率	差額
会費	¥10,800,000	¥10,189,052	94.3%	¥-610,948
出版物売上	¥700,000	¥690,914	98.7%	¥-9,086
雑収入	¥150,000	¥145,479	97.0%	¥-4,521
大会収入(参加費・広告)	¥800,000	¥818,500	102.3%	¥18,500
受取利息	¥500	¥24,345	4869.0%	¥23,845
未払い費用(選・名)	¥0	¥0	100%	¥0
計	¥12,450,500	¥11,868,290	95.3%	¥-582,210

<支出の部>

科目	2024/25年度 予算	2024/25年度 決算	執行率	差額
雑誌生産費	¥4,000,000	¥3,674,604	91.9%	¥325,396
雑誌期首棚卸高		¥1,559,052		
雑誌期末棚卸高		¥-1,841,954		
編集費	¥100,000	¥123,791	123.8%	¥-23,791
雑誌発送費	¥600,000	¥473,664	78.9%	¥126,336
集会費	¥150,000	¥145,518	97.0%	¥4,482
大会開催費	¥1,000,000	¥1,344,818	134.5%	¥-344,818
研究部会運営費	¥400,000	¥172,840	43.2%	¥227,160
創立記念事業費	¥30,000	¥22,000	73.3%	¥8,000
給料手当	¥2,600,000	¥2,881,626	110.8%	¥-281,626
保険料	¥500,000	¥576,409	115.3%	¥-76,409
旅費・交通費	¥200,000	¥162,580	81.3%	¥37,420
通信費	¥250,000	¥209,504	83.8%	¥40,496
顕彰事業費	¥60,000	¥58,038	96.7%	¥1,962
企画・広報事業費	¥30,000	¥41,800	139.3%	¥-11,800
会合費	¥20,000	¥8,214	41.1%	¥11,786
選挙費	¥0	¥0	-	¥0
選挙費積立金	¥100,000	¥100,000	100.0%	¥0
諸印刷費	¥20,000	¥4,720	23.6%	¥15,280
名簿作成発送費	¥0	¥0	-	¥0
名簿作成発送費積立金	¥100,000	¥100,000	100.0%	¥0
消耗品費	¥40,000	¥35,715	89.3%	¥4,285
機械借上費	¥60,000	¥47,806	79.7%	¥12,194
室料(家賃・光熱費)	¥1,260,000	¥1,247,569	99.0%	¥12,431
相談手数料	¥130,000	¥131,249	101.0%	¥-1,249
寄付金	¥100,000	¥150,000	150.0%	¥-50,000
若手研究者国際会議派遣助成	¥500,000	¥348,000	69.6%	¥152,000
租税公課	¥70,000	¥70,000	100.0%	¥0
諸会費	¥50,000	¥0	0.0%	¥50,000
雑費	¥50,000	¥5,955	11.9%	¥44,045
予備費	¥30,500	¥0	0.0%	¥30,500
計	¥12,450,500	¥11,853,518	95.2%	¥596,982

収支差額	¥0	¥14,772		
------	----	---------	--	--

<繰越金>

前期末純資産額	¥33,375,982
今期末純資産額	¥33,390,754

< 報告事項 > 3

一般社団法人人文地理学会2025/26年度 予算
(2025年度 2025年10月1日 ～ 2026年 9月30日)

<収入の部>

科目	2025/26年度 予算	備考
会費	¥10,709,000	
出版物売上	¥600,000	
雑収入	¥150,000	主に印税
大会収入(参加費・広告)	¥900,000	発表数の増加と要旨集のデジタル化に伴う増収が見込まれるため
受取利息	¥20,000	金利上昇のため
未払い費用(選・名)	¥200,000	前年度積立ありのため
計	¥12,579,000	

<支出の部>

科目	2025/26年度 予算	備考
雑誌生産費	¥4,000,000	過去5年間400万円
編集費	¥150,000	前年度実績に応じて増減あり
雑誌発送費	¥500,000	今年度実績に基づく 過去5年間60万円台で推移
集会費	¥150,000	前年度より15万円に減額
大会開催費	¥1,000,000	前々年度より100万円
研究部会運営費	¥400,000	2021年度より40万円
創立記念事業費	¥30,000	
給料手当	¥2,700,000	
保険料	¥500,000	
旅費・交通費	¥200,000	過去5年間20万円
通信費	¥200,000	電話料金、切手代など 前年度実績に応じて増減あり
顕彰事業費	¥83,000	今年度より「発表ペーパー部門」開始に伴い23,000円増額
企画・広報事業費	¥30,000	
会合費	¥15,000	年々減額 前々年度3万円 前年度2万円
選挙費	¥200,000	隔年:選挙実施年度のため
選挙費積立金	¥0	隔年:選挙実施年度のため積立なし
諸印刷費	¥20,000	郵便振替票、学会ロゴ入り封筒などの印刷費 前々年度より2万円
名簿作成発送費	¥300,000	隔年:選挙実施年度のため
名簿作成発送費積立金	¥0	隔年:選挙実施年度のため積立なし
事務消耗品費	¥65,000	年度により変動 編集費の一部を含む
機械借上費	¥45,000	Canon機器リース代
室料(家賃・光熱費)	¥1,200,000	
相談手数料	¥90,000	役員変更登記を実施しない年度のため前年度より減額
寄付金	¥100,000	地理オリンピックへの寄付 過去5年間10万円
若手研究者国際会議派遣助成	¥500,000	前年度より50万円
租税公課	¥70,000	過去5年間7万円
諸会費	¥0	会費支払先(日本学術協力財団)解散のため
雑費	¥30,000	慶弔費など 過去5年間最低3万円、最高6万円
予備費	¥1,000	年度により変動
計	¥12,579,000	

収支差額	¥0	
------	----	--

決 算 報 告 書

第 11 期

自 2024年10月 1日

至 2025年 9月30日

一般社団法人人文地理学会

京都市左京区吉田河原町14番地
近畿地方発明センター合同ビル内

貸 借 対 照 表

2025年 9月 30日 現在

一般社団法人人文地理学会

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 ・ 純 資 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
現金及び預金	30,449,024	預 り 金	102,884
会 誌	1,841,954	前 受 金	10,000
仮 払 金	12,660	選挙費 積立金	100,000
		名簿作成発送費積立金	100,000
流動資産合計	32,303,638	流動負債合計	312,884
【固定資産】		負債の部合計	312,884
投資その他の資産		純 資 産 の 部	
保 証 金	1,400,000	基 金	0
その他固定資産合計	1,400,000	剰 余 金	33,390,754
固定資産合計	1,400,000	純資産の部合計	33,390,754
資産合計	33,703,638	負債及び純資産合計	33,703,638

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

①計算書類の作成基準

一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成している。

②資産の評価基準及び評価方法

(1)棚卸資産の評価基準及び評価方法

会誌：最終仕入原価法による原価法

損 益 計 算 書

自2024年10月1日 至2025年9月30日

一般社団法人人文地理学会

(単位：円)

科 目	金 額	
(経常損益の部)		
【経常収益】		
受 取 会 費	10,189,052	
事 業 収 入	690,914	
受 取 負 担 金	818,500	
財 務 収 益	24,345	
その他 収 益	145,479	
経常収益計		11,868,290
【経常費用】		
(事業費)		
期首会誌棚卸額	1,559,052	
会 誌 生 産 費	3,674,604	
期末会誌棚卸額	▲ 1,841,954	
大 会 開 催 費	1,344,818	
顕 彰 事 業 費	58,038	
若手研究者国際会議派遣助成事業費	348,000	
事業費計		5,142,558
(管理費)		
給 料 手 当	2,881,626	
保 険 料	576,409	
集 会 費	145,518	
編 集 費	123,791	
研究部会運営費	172,840	
創立記念事業費	22,000	
旅 費 交 通 費	162,580	
通 信 費	209,504	
雑 誌 発 送 費	473,664	
企画・広報事業費	41,800	
会 合 費	8,214	
選挙費積立金繰入	100,000	
諸 印 刷 費	4,720	
名簿作成発送費積立金繰入	100,000	
消 耗 品 費	35,715	
賃 借 料	47,806	
地 代 家 賃	1,247,569	
租 税 公 課	70,000	
相 談 手 数 料	131,249	
寄 付 金	150,000	
雑 費	5,955	
管理費計		6,710,960
経常費用計		11,853,518
経常 利益		14,772
当期純利益		14,772

附 属 明 細 書

2025年 9月30日 現在

一般社団法人人文地理学会

1. 引当金の明細 (単位：円)


科目	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
選挙費積立金	0	100,000	0	100,000
名簿作成発送費積立金	0	100,000	0	100,000

2025 年 10 月 4 日

監 査 報 告

一般社団法人 人文地理学会

監事 秋山道雄 

監事 内田忠賢 

2024/25 年度の事業報告、計算書類、これらの附属明細書、その他理事の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

1 監査の方法及びその内容

監事間の協議により、監査方針を定めた上で、庶務委員会、会計委員会の分野を中心に調査を行い、その結果を監事間で協議して、監査を実施しました。

具体的には、理事会その他の重要な会議に出席し、会計帳簿、会計書類、重要な決裁文書及び報告書を閲覧し、当法人の理事等から、職務の執行状況等について定期的に報告を受け、また、随時説明を求めました。

2 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。
- (2) 理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (3) 当法人の業務の適正を確保するために必要な体制の整備等についての理事会の決議の内容は相当です。
- (4) 計算書類とその附属明細書は当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

以上